

統計学入門 補助資料

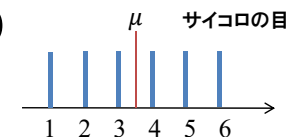
～期待値～

2022年度1学期: 月曜2限
担当教員: 石垣 司

確率変数の期待値 (確率分布の平均 μ)

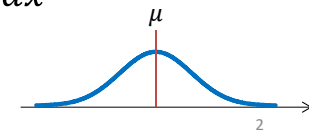
- 確率分布の中心(正確には重心)の位置を表す値
- 離散確率分布の平均
※高校数学で学習済み

$$\mu = E[X] = \sum_{i=1}^m x_i p(x_i)$$



- 連続確率分布の平均

$$\mu = E[X] = \int_{-\infty}^{\infty} x f(x) dx$$



確率変数の関数の期待値

- 確率分布の特徴となる平均や分散などの指標の計算を一般化
- 離散確率分布の期待値

$$E[g(X)] = \sum_{i=1}^m g(x_i) p(x_i)$$

- 連続確率分布の期待値

$$E[g(X)] = \int_{-\infty}^{\infty} g(x) f(x) dx$$

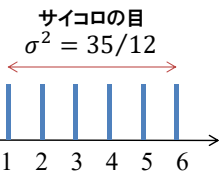
確率分布の分散 σ^2

- 確率分布のばらつき(平均からのズレ)を表す指標
- $g(X) = (X - \mu)^2$ の期待値が分散

#メモ 直観的には $g(X) = |X - \mu|$ の方が理解しやすいが、絶対値よりも2乗の方が数学的な性質がよいので、このように定義される

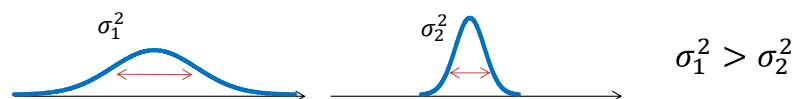
- 離散確率分布の分散 σ^2

$$V[X] = E[(X - \mu)^2] = \sum_{i=1}^m (x_i - \mu)^2 p(x_i)$$



- 連続確率分布の分散 σ^2

$$V[X] = E[(X - \mu)^2] = \int_{-\infty}^{\infty} (x - \mu)^2 f(x) dx$$



期待値計算の性質

- 定数の期待値 (a, b は定数)

$$E[a] = a$$

- 線形性

$$E[ag_1(X) + bg_2(X)] = aE[g_1(X)] + bE[g_2(X)]$$

- 分散の分解

$$V[X] = E[X^2] - E[X]^2$$

check!

- 確率変数の1次式の分散

$$V[aX + b] = a^2V[X]$$

check!

5

演習問題

- ベルヌーイ分布の平均と分散を求めよ

– 確率関数 $P(X = x) = p^x(1 - p)^{1-x}, x \in \{0, 1\}$

- 区間 $[a, b]$ の一様分布の平均と分散を求めよ

– 確率密度関数 $f(x) = \begin{cases} \frac{1}{b-a} & (a \leq x \leq b) \\ 0 & (x < a, x > b) \end{cases}$

6

確率分布の歪度と尖度

- 歪度 確率分布の非対称性の指標

– 値が正(負)なら右(左)裾が長い。値がゼロなら左右対称

$$\alpha = \frac{E[(X - \mu)^3]}{\sigma^3}$$

α が負の値

$\alpha = 0$

α が正の値



- 尖度 確率分布の中心の尖り具合の指標

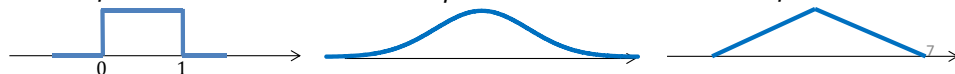
$$\beta = \frac{E[(X - \mu)^4]}{\sigma^4}$$

#メモ 正規分布の尖度は3となる。正規分布の尖度を0とする定義($\beta = \frac{E[(X - \mu)^4]}{\sigma^4} - 3$)もある

$\beta = 1.8$

$\beta = 3$

$\beta > 3$



補足: 確率分布の形を決める量

- 確率変数の n 乗の期待値 $E[X^n]$ が確率分布の形を決めている

– $\mu = 0$ のとき, 分散 $E[X^2]$, 歪度 $\sigma^{-3}E[X^3]$, 尖度 $\sigma^{-4}E[X^4]$
 – 関数 $g(X) = X^n, (n = 1, \dots, \infty)$ の期待値がすべて決まれば, 確率分布の形が決まる

- 確率変数 X のモーメント母関数(積率母関数)

$$M_X(t) = E[e^{tX}]$$

– 関数 $g(X) = X^n$ の $n = 1, \dots, \infty$ の期待値を作り出す関数
 – 確率変数 X, Y のモーメント母関数が一致するならば, X, Y の確率分布も一致する

• 証明は本授業の範囲を超えるため省略(複素積分やラプラス変換が必要)

8

補足: 指数関数のテイラー展開

関数 $f(x)$ の $x = a$ における多項式による近似

- 関数 $f(x)$ が $x = a$ を含む区間で無限回微分可能であり、かつ、 $\lim_{\Delta x \rightarrow 0} R_n = 0$ のとき、

$$f(x) = f(a) + \frac{f^{(1)}(a)}{1!}(x-a) + \frac{f^{(2)}(a)}{2!}(x-a)^2 + \frac{f^{(3)}(a)}{3!}(x-a)^3 + \dots + R_n$$

- ※ $a = 0$ のときのテイラー展開をマクローリン展開とよぶ

指数関数のマクローリン展開とモーメント母関数

$$f(t) = e^t = 1 + t + \frac{t^2}{2!} + \frac{t^3}{3!} + \frac{t^4}{4!} + \dots$$

$$M_X(t) = E[e^{tX}] = 1 + tE[X] + \frac{t^2}{2!}E[X^2] + \frac{t^3}{3!}E[X^3] + \dots$$

9

演習問題

次の確率分布の平均と分散を求めよ

$$f(x) = \begin{cases} -6x^2 + 6x & (0 \leq x \leq 1) \\ 0 & (x < 0, x > 1) \end{cases}$$

- ※ ヒント 分散は、分散の分解を使うと便利

10